

庄内平野の米づくり ~おいしい庄内米ができるまで~

9 庄内米の歴史とひみつ

(1)



昔の山居倉庫の様子じゃ。110年以上たった今でも活躍しておるんじゃよ。



庄内米を江戸に運んだ千石船の模型

① 西廻り航路の開発

米どころ出羽の国の庄内米は、文録(1592年)ごろ、御用米として酒田港から肥前の国へ運ばれていました。また徳川幕府は西廻り航路を開発し、寛文12年来、御用船で江戸まで回送しました。それからは、奥羽のなかでも一大米産地として、庄内米は独自の発展を続けてきました。慶長(1596年)のころには敦賀・大津・大阪との取り引きが盛んに行われ、米問屋は米蔵を預かり、米札を発行して売買の便宜をはかりました。

② 山居倉庫の歴史

庄内にはたくさんの米倉庫がありますが、なかでも代表的な倉庫といえば、酒田市にある山居倉庫。明治26年(1893年)に建設されたこの倉庫は、民営としては他に例のない規模を誇り、庄内米とその取引所は年を追って栄えました。また大正~昭和にかけては、庄内地方の各駅に支庫も増設され、取引高も全国有数の市場となりました。

NHK朝の連続テレビ小説「おしん」の舞台ともなった山居倉庫は、建設から110年以上たった今でも、現役の米倉庫として活躍しています。